



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	低環境負荷型ファッション文化に関する研究
Author(s)	田村, 照子; 稲葉, 敦; 山口, 庸子; 佐藤, 真理子
Citation	服飾文化共同研究報告 2008 平成20年11月～平成21年3月 (2008-06) pp.38-39
Issue Date	2009-06-26
URL	http://hdl.handle.net/10457/874
Rights	

低環境負荷型ファッション文化に関する研究
The Study on Reducing the Environmental Load of Fashion and Clothing Culture

田村 照子*¹, 稲葉 敦*²⁺, 山口 庸子*³⁺, 佐藤 真理子*¹
Teruko Tamura*¹, Atsushi Inaba*², Yoko Yamaguchi*³ and Mariko Sato*¹

*1 文化女子大学服装学部 東京都渋谷区代々木 3-22-1

Faculty of Clothing Science, Bunka Women's University

3-22-1, Yoyogi, Shibuya-ku, Tokyo, Japan

*2 東京大学人工物工学研究センター

Research into Artifacts, Center for Engineering, The University of Tokyo

*3 共立女子短期大学

Kyoritsu Women's Junior College

+ 服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture,

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract: In recent years, global environmental problems have aggravated human lives. Especially, the revolution of human lifestyle has been requested. Then, the environmental load caused by clothing has become one of the key issue. In this study, the environmental load of the entire life cycle, including clothing-related factors was initially examined. The achievement of new environmentally friendly fashion and clothing culture is the aim of this research.

目的

1992年ブラジル・リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議において、地球環境問題は人類共通の課題として位置づけられ、以来「持続可能な発展」の理念の下、環境と開発の両立を目指した取り組みが世界に推進されてきた。この活動は、2002年の南アフリカ・ヨハネスブルグでのいわゆる地球環境サミットにおいて、「持続可能な消費と生産」に向けての活動に発展している。すなわち、持続可能な発展を果たすためには、生産者だけでなく消費者の行動、ライフスタイルの変化が必要であるという認識を世界で共有することが必要とされている。

人のライフスタイルは、衣食住を主とする様々な生活の要素から成り、これらの要素それぞれの環境側面を考察する活動がUNEP(国連環境プログラム)を中心に世界的に推進されている。生活の要素の一つであるファッション(衣)には、消費文化として発展して来た経緯があり、環境を考慮する立場とはやや縁遠い関係にあった。しかし、衣の素材の生産現場である農業や工業における地球環境対策は近年大きな課題となっており、また、エコロジカルなライフスタイルを戦略として打ち出すファッションブランドが市場に受け入れられるなど、消費者の意識の変化も進んで来ている。

*1) tamura@bunka.ac.jp

これらの状況を背景とし、本研究は、アパレル製品の環境側面を考察し、アパレル製品を通じて環境に調和したライフスタイルのあり方を考え、新しい環境配慮型ファッション文化の創生に寄与することを目的とする。

本年度の活動

本研究の端緒を開くにあたり、アパレル製品の環境負荷を Life Cycle Assessment (LCA) により定量的に評価し、その地球温暖化に関する分析結果を製品に表示するカーボンフットプリントの実施方法とその効果について検討することを具体的な目標とし、本年度はその土台固めを主とした。

カーボンフットプリントは、食品・日用品を中心としてその実施が世界中で開始されている状況にあり、また海外ではアパレル製品への表示も開始されている。そこで、アパレル製品におけるカーボンフットプリント研究の課題、問題点を抽出するため、稲葉敦東京大学教授を委員長とする研究会を立ち上げ、先行研究のヒアリングを行った。

○第1回研究会 平成20年12月16日(火)

出席者：稲葉、田村、山口、佐藤、他(伊藤忠、インクマックス、オンワード樫山、セーレン、帝人ファイバー、丸井グループ、日本化学繊維協会) 計12名

討議テーマ

- ・カーボンフットプリント推進の現状
- ・カーボンフットプリント研究の必要性
- ・アパレル製品のカーボンフットプリント研究における課題と問題点

○第2回研究会 平成21年1月30日(金)

出席者：稲葉、田村、山口、佐藤、他(アイク、インクマックス、オンワード樫山、グンゼ、セーレン、帝人ファイバー、ビルディングパフォーマンスコンサルティング、丸井グループ、ミズノ、産業技術総合研究所) 計19名

- ・事例発表1 Tシャツに関するLCA分析・評価
- ・事例発表2 Yシャツに関するLCA分析・評価

○第3回研究会 平成21年3月19日(木)

出席者：稲葉、田村、山口、佐藤、他(アイク、伊藤忠、インクマックス、オンワード樫山、グンゼ、帝人ファイバー、ビルディングパフォーマンスコンサルティング、丸井グループ、ミズノ、CONTINENTAL CLOTHING COMPANY, JAPAN、産業情報研究センター、日本化学繊維協会、産業技術総合研究所)、計23名

- ・事例発表1 海外企業の環境に対する取り組み
- ・事例発表2 繊維製品におけるLCIデータの性質

購入品目リスト

LCA実施ソフトウェア「JEMAI-LCA Pro」及びオプションデータパック
プロジェクタ、ICレコーダ、CD-R、USBメモリ、ファイル他

今後の展開

LCA評価手法をアパレル製品に当てはめた際の、課題、問題点の抽出を行うと共に、生産から廃棄に至るアパレル製品の基準モデルづくりを行い、ライフサイクルの各段階における環境負荷の検討を行う。